

はじめに

本書は、がん緩和ケアを志す初学者のために編纂しました。数多ある類書との決定的な違いは、「失敗から学ぶ」ことを最大のテーマに据えている点にあります。

近年、緩和ケア研修会などの普及により、基本的な緩和ケアの知識を得る機会は飛躍的に増えました。しかし、実臨床では研修通りにいかない場面も多く、専門医に即座に相談できない環境下で、孤独に試行錯誤を続けている方も少なくありません。本書は、そうした悩みをもつ読者に寄り添い、専門家が臨床の現場で何を考え、どう判断しているのかを、若手オンコロジストとの対話形式を通じて平易に解き明かします。

内容面では、頻用薬の解説に留まらず、予後予測や臨死期への対応といった、緩和ケアの本質的な「考え方」が伝わるよう工夫を凝らしました。また、編者が日常臨床で重視している「救急外来での対応（オンコロジーエマージェンシー）」にも一章を割いています（第2章）。急性期の最前線から緩和ケアのスキルを発揮するための実践的なコツを提示しました。

さらに、緩和ケアと密接に関連する「緩和的放射線照射」と「サイコオンコロジー」の領域については、同世代のトップランナーである和田優貴先生と五十嵐江美先生にご執筆いただきました（第3章）。各分野の第一線で活躍される両先生による解説は、初学者にも極めてわかりやすく、読者の皆様の臨床を劇的に変える一助となると確信しております。

「学ぶ」の語源は「真似ぶ」であると言われます。本書に綴られた「しくじり」を単なる反面教師とするのではなく、その裏にある真の考え方を「真似る」ことで、皆様の日常臨床がより豊かなものになることを願ってやみません。

末筆ながら、多忙な業務の合間を縫って本書の監修をお引き受けいただき、温かいご指導を賜りました森田達也先生に、深甚なる謝意を表します。また、本企画の趣旨に賛同し、素晴らしい原稿をお寄せいただいた和田優貴先生、五十嵐江美先生、ならびに編集に尽力いただいた羊土社の寺山七夢様に心より御礼申し上げます。

2026年4月

竹田総合病院 緩和医療科
平塚裕介